

広 報

# ふじがわ

7 月 号

昭和56年7月20日発行

No. 240

## 町 の メ モ

昭和56年7月1日現在

人 口	17,004人
増 減	+ 20人
男	8,425人
女	8,599人
世帯数	4,304世帯
面 積	31.09 $\text{km}^2$

富士川町 企画開発課



私たちのお願い  
かなえられるかな

(表紙の言葉は2ページに)

町の今年  
の目標  
「笑顔であいさつ  
明るい町に」

# 農村集落環境整備事業や生活関連事業を主体に7,500万円を補正

町議会の6月定例会は、6月18日(木)午  
前9時から議場で開催され、常葉町長の一般  
行政報告を皮切りに、昭和56年度一般会計補  
正予算・土地取得特別会計補正予算、固定資  
産評価審査委員選任につき同意を求めること  
についてなど、八議案が審議され、すべて原  
案どおり可決されました。

昭和56年度一般会計補正予算は、松野児童  
館・農村集落環境整備事業・庁舎前駐車場補  
強工事・生活関連事業など、投資的事業を中  
心に七千九百万円を補正、予算総額は二十二  
億一千九百万円となります。これに要する経  
費には、県支出金・寄付金・繰越金などをあ  
てていきます。

## 一般行政報告

◎青少年健全育成を目指し本年度  
は富士川町が特別指定地区に  
ここ数年の青少年非行化問題  
にともない、蒲原警察署でも昨年  
度、由比町を特別指定地区として  
巡視・警戒などの強化による防止  
対策を行いました。本年度は当  
町を指定し、県警施策の遂行にあ  
たるることです。

◎企業局による中野宅地分譲事業  
の進捗状況は  
本年度も4月上旬から6月中旬  
まで鋭意買収に努力した結果、全  
体買収面積の六〇〜六五割の地主  
のみなさんと契約しました。今後  
は未契約の五十八人のみなさんと  
十分話し合いをし、納得をいただ  
けるように努力したいと思ってい  
ます。

◎町道富士川―蒲原線(富士川堤  
防敷)は6月1日に共用開始済  
国道一号线・県道富士川―身延  
線交通渋滞の解消策の一つである  
富士川堤防兼用道路は、当町分が  
延長二千四百六十九・一㊦、幅員  
五・六㊦、待避所五カ所を備え、  
国鉄下九十五・一㊦、工事費五百  
九十六万円、富士川橋から新幹線  
まで一千八百四・七㊦、工事費一  
千六百九十五万円、新幹線下から  
蒲原町境まで三百三十五㊦、工事  
費四百万円で行いました。また、  
この道路から国一富士川橋に右折  
することが困難のため、蒲原水門  
前から国一へ連絡道六十三・三  
㊦、幅員八㊦、工事費五百三十四  
万円で全線舗装し、本年6月1日  
に供用開始しました。

また、ほてい缶詰裏の造成工事は  
6月初旬に発注し、再配分の測量  
などを行っています。

さらに計画区域内の十五人の居  
住者のみなさんについても、今月  
9日に再度説明会を行い、今後は  
個々に折衝し、調査などを行って  
いくことで了解に達しています。  
いずれにしても、終了目標を秋  
ごろにしていますので、今後も地  
主のみなさんとの交渉を続行し、  
了解を得られるよう努力する所存  
です。

◎県道富士川―身延線バイパスの  
状況は  
本年度は当初予算において一億  
五千万円が箇所付けされ、その中  
で工事費と用地費に配分される訳  
ですが、なにぶんにも国が公共事

昭和56年度土地取得特別会計補正予算は、  
県営中野宅地造成事業関連委託工事などと  
もなうもので、二百七十一万円を補正、予算  
総額は四千五百九十九万円となります。この  
ための財源は、一般会計から繰入れ充当しま  
した。

固定資産評価審査委員選任につき同意を求  
めることについては、町固定資産評価審査委  
員の芦川利一氏(木島)と、池上憲氏(本通  
り三)が6月28日で任期満了となるため、両  
氏の再任について議会に同意を求めたもので  
す。

なお、一般行政報告と一般会計補正予算の  
内容は次のとおりです。

## 表紙の1つは

7月7日、町立第一幼稚園  
では、子どもたちが二日がかりで作った「お星さま」や、  
お願いの「短冊」を、大きな  
竹に飾りつけ「七夕祭り」を  
楽しんだ。子どもたちの小さ  
な手で、きれいに飾りつけら  
れた短冊を見ると「まほうが  
つかえるようになりますよう  
に」とか「おとうさんがはやく  
いえにかえってきますように  
に」など――。

しかし、当日の夜はあいにくの曇り空。はたして、天の川  
の織女(しよくじよ)と牽牛(けんぎょう)は、デート  
を楽しむことができたのか？  
また、子どもたちの願いは届  
いたのだろうか？

ところで、七夕の行事が広く行  
われるようになったのは江戸時代  
からだそう。イモの葉にたまった露で墨をす  
って短冊に歌や願いごとを書き、  
書道や裁縫の上達を祈ったりした  
ようだが、現在のように入人間が宇宙を往復する  
時代になっても、このようなロ  
マンチックな祭りの風習は失  
いたくないものである。

業の抑制を行っているため、昨年  
度より七千八百万円、予算額が減少  
しました。

◎広域農道計画は  
静岡庵地区は、東西交通の重要  
地点で、気象条件に恵まれたミカ  
ン栽培の中心的地域であり、農産  
物の出荷市場も東京・京浜地域が  
大半という、道路事情にも最も恵  
まれた条件下にあります。しかし  
地区内耕地は、急傾斜地や山地の  
ミカン園が大半という複雑な地形  
のため、小規模農道がある程度  
で、生産性の低い営農状態にある  
のが現状です。

以上の経緯から、今後生産性を  
高めるには、労働力の省力化や諸  
施設・機能の有効利用のため基幹  
農道の設置が急務であり、また国  
道・地方道の交通量の増加や車両  
の大型化にともない、地場産業の  
輸送体系に支障が生じるおそれが  
あるという面からも、農業を主と  
する産業用道路建設の要望が急速  
に高まっています。このため、当  
町の農免農道(南松野―室野)の  
完成により、当町から静岡市麻機  
までの間を「広域営農団地農道整  
備事業」(県営)で行うよう、二  
市三町(静岡・清水市・由比・蒲  
原・富士川町)で5月28日に、県  
農地森林部へ陳情しました。しか  
し具体的にこの計画を実施するに  
は、大規模になる上に静岡・清水

市で路線的に問題があります。一  
方、当町から蒲原町小金までを農  
免農道とし、整備する計画の方が  
より具体化されやすいこともあり  
ますが、両面的に計画・準備を進  
めていきます。

なお、7月3日には「広域営農  
団地農道整備事業期成同盟会」を  
発足する予定です。構成は、町と  
議員のみなさん方で、国・県へ強  
力に働きかける所存です。

◎農免(岩淵)事業は  
農免農道事業は南松野水ノ口か  
ら室野までの間、全長三千五百四  
十一㊦を昭和48年度から総事業費  
五億二千三百万円をかけ進めて  
いるもので、本年度末には全線完  
了の予定です。しかし、当初は南  
松野・室野・岩淵地区を結ぶ全体  
計画であったのに対し、事業規模  
・事業費などの関係上、室野から  
岩淵(サーピスエリア)間を切り  
離したもので、現在、この区間に  
ついて新たに計画しています。こ  
の区間ができれば、前述の南松野  
から室野間の効用も高まり、ミカ  
ン農家の経営複合化や、農家経済  
の再建に大きく貢献するととも  
に、生活道路としての性格もあ  
り、大いに期待できると考えられ  
ます。

な お現時点では、この区間が農  
免道路として整備できるかどうか  
建設部局・農林部局との協議が必  
要となります。

◎町道富士川―蒲原線(富士川堤  
防敷)は6月1日に共用開始済  
国道一号线・県道富士川―身延  
線交通渋滞の解消策の一つである  
富士川堤防兼用道路は、当町分が  
延長二千四百六十九・一㊦、幅員  
五・六㊦、待避所五カ所を備え、  
国鉄下九十五・一㊦、工事費五百  
九十六万円、富士川橋から新幹線  
まで一千八百四・七㊦、工事費一  
千六百九十五万円、新幹線下から  
蒲原町境まで三百三十五㊦、工事  
費四百万円で行いました。また、  
この道路から国一富士川橋に右折  
することが困難のため、蒲原水門  
前から国一へ連絡道六十三・三  
㊦、幅員八㊦、工事費五百三十四  
万円で全線舗装し、本年6月1日  
に供用開始しました。

◎町制施行八〇周年記念について  
富士川町が村から町になったの  
は、明治34年1月のことですから  
今年ちょうど満八十年になります。  
また、町村合併で富士川町とし  
松野村が結ばれ、新富士川町とし  
て発足してから二十五年を迎える  
ことになりました。この間、町民  
のみなさんのご協力により、町政  
は飛躍的發展をみるにいたりま  
した。

そこで、八〇周年を歴史の一つ  
の節として、みなさんとともに記  
念すべく、現在町で記念行事を  
検討しています。時期としては、文  
化祭行事とあわせて計画したい  
と思っております。みなさんのご協  
力をお願いします。

## 一般会計の補正内容

- 総務費に 一千八百七十四万円
- 庁舎前駐車場補強工事他に 七百四万円
- 松野地区未登記未処理調査委託料に 二百万円
- 駐車場整備工事に 二百五十万円
- 農林水産業費に 二千七百三十七万円
- 農村集落環境整備設計委託料に 百万円
- 谷津排水路工事・農村集落環境整備事業(小山)他に 二千万円
- 大代コルゲート水路工事・県単改良林道吉津金丸線・県単治山平清水床固工事に 五百十五万円
- 土木費に 五百八十七万円
- 富士川―蒲原線安全施設工事・血流川左岸道路工事に 五百五十万円
- 消防費に 二百四十四万円
- 防災倉庫建設工事に 二百三十三万円
- 教育費に 一千三百五十九万円
- 郡中体連連絡会負担金・県公立幼稚園事務局特別負担金・富士見高等学校建設費負担金に 百万円
- 中央公民館建設基金積立金に 百万円
- 中央公民館用地広場整備事業に 二百二十万円

舟の船首に丸い穴があいていて、それを孟宗竹の太いのを通して、端を一人がかつき、他の三人ぐらいが舟に縛った綱を片方の岸から引いて上った。橋んとこへ行くと竹を抜いて、一人が舟に乗って竿をさし、綱を引く。衆は橋の上から綱をたぐり寄せ、その先端をアラアラ振って、反動で橋の下に綱を通した。そうすると、その綱が橋の反対側にうまくかかり、それを取ってまた舟を引上げていったよ。



松下茂作さん (宮町)

堀川があったころにやあ、異人さんが身延山を参拝した帰りに富士川を舟で下ってきた、ここんとこで降り、本通りにあった谷屋旅館に泊って、そのあした駅から汽車で大阪方面によく行くのを見たよ。それに、駅のホームを長くするに、この堀川を深く掘って、その土を使ったこともあったね。あのころ、東町の公会堂とこにあった富士見橋つう太鼓橋から見た富士山はきれいだったね。



早川おのゑさん (東町一)

土川運輸会社」を設立しました。ここで、同運輸会社が明治10年、蒲原から鵜沢間の舟運で取り扱った荷物量をみると――  
食塩 十二万三千五百四十八俵  
魚 一万三千三百十個六分  
豆類 四千九百九十三俵五分  
砂糖 三千三百二十七俵七分  
など、貨物総量が二十万六千二百二十俵四分五厘となつています。このように舟運が繁盛した結果、岩淵の間屋や運送業者は大きな影響を受け、馬子たちのほとんどが失業してしまつたといひます。  
やがて、東海道線が敷かれ、明治22年2月1日に岩淵駅が開設されると、岩淵はまた忙しくなつてきました。というのは、甲州からの荷物は蒲原へ運ぶ必要がなくなり、岩淵駅から直接に江尻駅(清水市)へ運ばばよくなったからです。そこで、岩淵や中之郷の有志は明治22年3月、資本金一百万円をもって「富士水合資会社」と「富士運河会社」を設立、あわせて同運河会社では、岩淵駅から水門までの権利を買収しました。そして運河の開さくを行い、岩淵駅の東側に舟溜りを建設しました。一方、岩淵駅から蒲原間の舟運はなくなり、以後はかんがい用水路として利用されたとのことです。

では、当時の岩淵駅周辺のにぎわいはどんなだったでしょう。これについてみますと、最盛期には「富士運河会社」の他に舟運会社が九社もあつたことや、四日市製紙(芝川町)の持ち舟だけでも約三十そう、製品や資材の運送のために毎日この運河を往復していたということから容易に想像がつくと思います。また岩淵駅付近の運河について、町内のある古者は、運河の幅は約五間(九尺)で、深さは約一尺、と語っています。  
しかしこの運河の舟運も、明治44年に中央線が全線開通すると、甲州や長野からの荷物が減少してしまい、大正5年には「富士運河会社」が解散、昭和3年に富士・身延鉄道が開通することによって幕を閉じました。現在では、岩淵駅前の舟溜りは埋立られて国鉄の軌道に、また運河も大部分が道路に変わり、ただ第一中学校前の一部だけが昔日の面影をとどめるだけになつてしまいました。  
以上、この運河の変遷について話してきましたが、舟運が盛んなころには富士川の水量も多く、大雨が降ると洪水を起こし河床をさらってしまつたため、運河に水が入らなくなり、再三再四、尼が築くなど、自然とのたたかひを繰り返していたことを、私たちは知っていなければならないと思ひます。

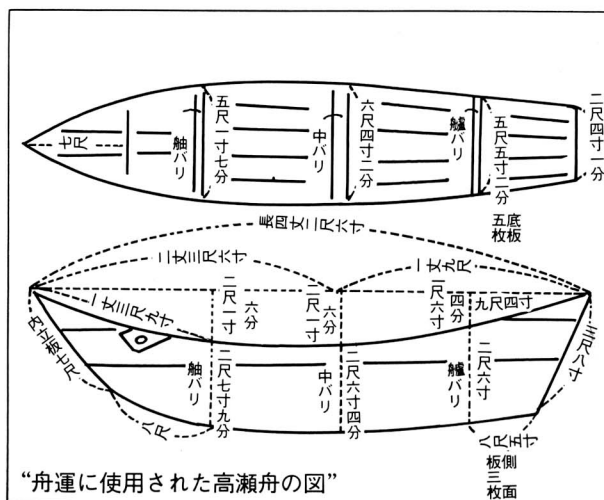
一 中付近の運河 (大正12年頃)



東町付近の運河 (大正中期)



## 思い出のアルバムから



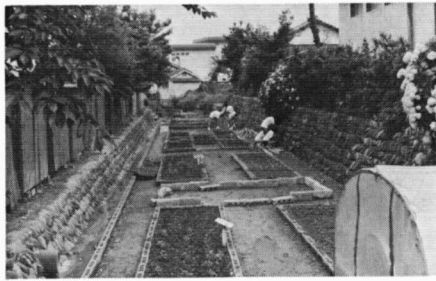
# 駿河と甲州の交易には 堀川の舟運が必要だった

## 堀川の舟運が必要だった

富士川町立第一中学校前の堀割りは、昔は立派な運河でした。今月の広報「ふじかわ」では、この運河について調べてみました。誰がどんな目的で運河を作つたのか。昔のことだから、ずいぶん大変な工事だつたことでしょう。しかし大変な工事でも、それ以上のメリットがあつたからこそ作られたと思ひます。みなさんも、この堀割りの前に立って、昔そこを荷物を積んで通つた舟や、呼びかければ「オーイ」と返事をくれそうな幻の船頭さんを想像されたら、きっと心の温まるものを感じられることでしょう。



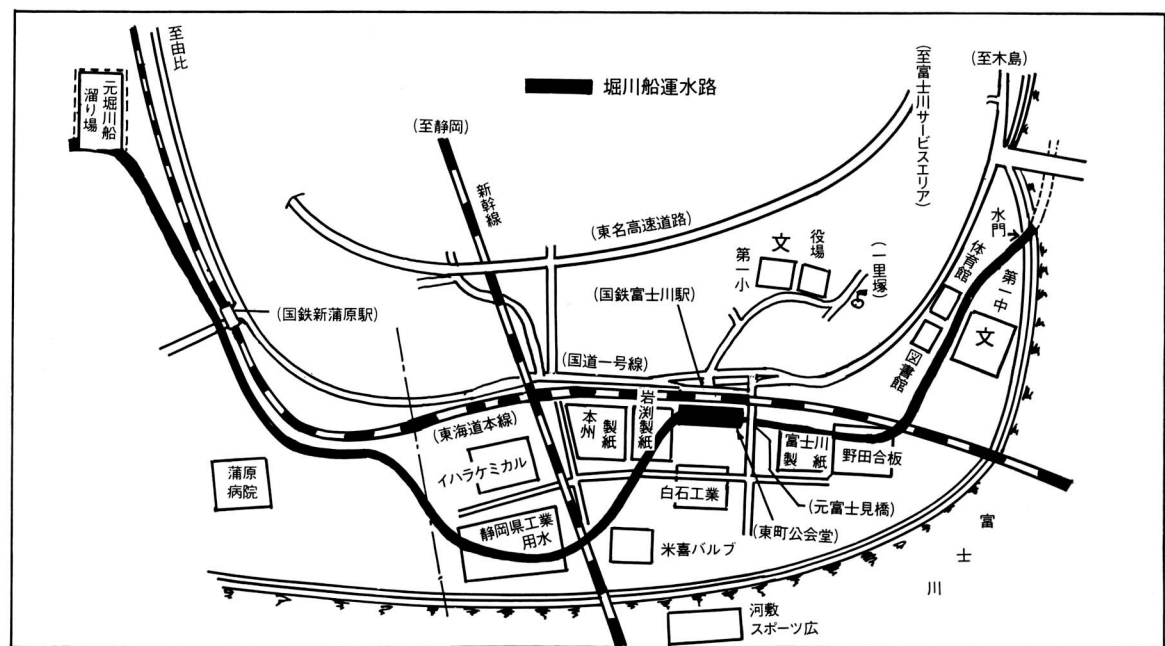
▲ 坂下の水門



▲ 中前の堀割り

江戸時代に甲斐の国・鵜沢宿と駿河の国・岩淵宿を結ぶ、上り下りの富士川舟運は、一日に数百艘もあつたといひます。岩淵宿の繁盛はたいへんなもので、甲州から富士川を下ってくる荷物(主に米)と、甲州へ富士川を上っていく荷物(主に海産物)の山。そして船頭たち。また、その荷物を岩淵宿から蒲原宿へ馬で運ぶ者、反対に岩淵宿へ運び込んでくる者。というふうには、富士川舟運が江戸初期に開かれてから、岩淵宿は年ごとにぎわつていきました。  
時が移り明治5年10月には、静岡県令II大迫貞清・山梨県令II藤村紫郎の援助で、蒲原町や鵜沢町

などの有志が共同出資し、東町の地先から蒲原まで約四き、舟運とかがんがい用水路を兼ねた運河を開き、堀川(蒲原町)に船溜りを作りました。また、同年に中之郷の有志により、富士川河原の新田開拓にあわせ、かがんがい用水路を開さくした資料があるところから、この用水路が岩淵から蒲原間の運河の残りの部分(富士川提防の坂下水門―東町間)に何か関係していたとも想像されます。というのは、明治8年ころには、すでに蒲原から鵜沢間を舟が往復していたからです。  
一方、富士川舟運も明治8年2月には、鵜沢町の有志により「富



# ママさん記者の 役場訪問記 ～総務課編～

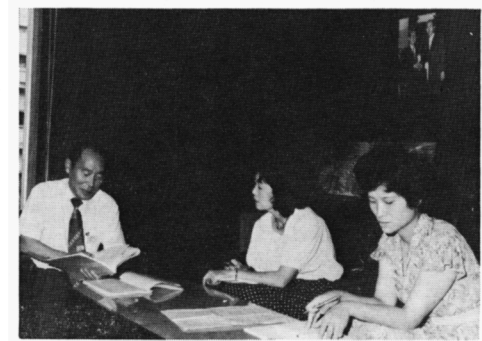
広報「ふじかわ」の企画として、今月号から広報モニターによる役場の各課紹介がスタートしました。そのトップバッターとして私たちは7月3日、役場二階にある総務課の渡辺課長さんをお話をうかがいました。渡辺課長さんは、太った身体に物腰の柔らかさ、さすが町民の窓口におさわししい人だと思いました。

さて総務課の仕事は大別しますと、庶務人事係、行政管理係、財政係、安全対策係になります。これらを個々にみていきますと――

第一に庶務人事係は、一般の会社の総務課と変らない仕事を行っています。

第二に行政管理係は、行政全体の窓口だそうで、選挙の年是有権者の名簿作成がとっても大変なんだそうです。

第三に財政係は、町の台所を一手に引受けていて、私の家計簿みたいに赤字になることは絶対にな



右から常盤・太田モニターと総務課長

いそうで、いつでも歳入歳出がびつたんこになっていきます。そのためには、政府資金を借りたり、民間での一時借入金といった措置がとられ、6・9・12・3月の町議会定例会では補正予算がくまれます。町政に対する町民参加という意味で、みなさんも一度くらいは町議会定例会を傍聴にいらしてみたいかかと思えます。

第四に安全対策係は、私たち住民が交通に対する危険や不便さを感じた時、たとえばカーブミラーガードレール・防犯灯などの故障の場合は、ここに連絡すれば迅速に処理してくれるそうです。今までは交通に関する事は、すべて警察がやるのかな、と思っていた私は、無知さかげんを思い知らされました。また、今叫ばれている地震対策の問題もここで処理されていきました。その中でも、私たちに一番関心のある、地震が予知された場合の情報は県庁からここにファクシミリ(電送)によってもたらされ、広報無線や広報車で各地区の自主防災組織へ、ということになっていきます。今でも少しずつ不気味に動いている地震計、ここへ来れば地盤の軟弱さの地図も見せていただけです。この係の今年の目標は、自主防災組織の充実強化にお



## 本報デスクから みなさんへ のメッセージ

みなさんが参加できる楽しい広報紙にするため、本紙8月号から新企画で「広報デスクセッション」が登場します。これは月々テーマを決め、広報モニターのみなさんが順番に発言者となり、そのテーマに関する意見を出し、それに関連したみなさんの意見を掲載するものです。

8月のテーマは、町の今年目標「笑顔であいさつ明るい町に」の「私の実践」で、発言者は久松陸子さんをお願いしました。広報係では、このテーマに関連した「あなた自身の実践法」をお待ちします。

町の標語があらわこちらで目につく。今年も半年を過ぎてしまった今、みんなにこれがどれだけ浸透しているのかな? と思う。

先日「親子スポーツ教室」をのぞくと、かわいい子どもたちが、見慣れないのがあるなと思いがち「おはよう」とか「お願いします」なかにはお母さんの陰から

「ニコッ」とする子――。初対面というの、大人や子どもを問わずてれくさいものだ。こんな時は改めてあいさつと形式はらずに、何か一言話しかけると、あとは無限に言葉が出るものだ。私も最近近所の小学生に「お帰り」と言ったら、初めは「ニヤッ」として通り過ぎたが、今ではよい友だち

「こんにちは」でも「どこへ行くの」なんでもよいから、心と心のつながりのために、お互いに一言声を掛け合うことが必要ではないでしょうか。

発言者 久松 陸子

投稿者にお願ひ

●8月のテーマ  
町の今年目標「笑顔であいさつ明るい町に」の実践法

●字数  
四百字づつ原稿用紙へ一枚以内。必ず原稿用紙を使用してください。

●メ切り日 8月10日まで

●投稿先・問い合わせ先  
富士川町岩淵二二番地  
富士川町役場・企画開発課

※匿名者の原稿は掲載しませんから、メ切り日までに、原稿用紙に必ず住所・氏名を記して投稿してください。

## 親子遊び 親子で楽しむ

本紙5月号でも掲載しましたが、その第二弾として手軽な親子十分間トリムを紹介します。

①後ろ回転降り――腕の力・逆さ感覚  
お母さんはイスに座り、子どもはお母さんの膝の上に向い合せて座って、上体を後ろにそらせて床に手がつくまで少しずつ身体をずらしてゆく――⑦  
して倒立になる――①  
ゆっくり片足ずつ降す――②

②足つき――腹筋の運動(四歳から)  
お母さんは上を向いて寝ころび、両足をそろえて図のように持ち上げる。子どもは、まりつきのように足を軽く押す。これは、回数を決めたり、歌に合わせて行くと、美容と健康に効果的です。

③波のりとお馬さん――平衡感覚(三歳から)  
子どもはお母さんの背中の上で、図④のように立つ。  
また、図⑤のように柱に手をかけ、子どもは背中ののり、馬から落ちないようにバランスをとる。お母さんは軽く膝を曲げたり、背中を伸ばしたり、身体をゆすったりする。

④荷車(腕・腹・背筋力)  
足を前に伸ばし、座った姿勢から足を持ち上げる。腕の支えがしっかりしたら、ゆっくり前や後ろに進む。

## 年金の豆知識

(その十二)

四十年後に年金はもらえるのでしょうか?

Q 私は先月二〇歳になったため、国民年金に加入したわけですが、私が六〇歳になると、これを納め続けるとすると、実際に四十年も先の話ということですが、どうもすんなりと納める気になれないのが本心です。はたして私の老後まで年金は存在し本当に受給することができるのでしょうか?

A 今のお年寄りが豊かで安心して老後を送れるようになってきたのは、年金制度が年ごとにと充実してきたからこそであり、この制度がお年寄りにとって、どんなに心強いものになっているかはわかり知れないことをまず考えてください。確実にくるあなたの老後に年金を受給できる権利を得るには、今から着実に保険料を納めていくことの意味を、あなたも十分理解することが必要です。

一般に若者は、生産能力があるがゆえに社会的扶養義務を果しているわけで、国では国民の社会福祉推進のためにこの年金制度を完成させたのです。あなたの老後保障は、この年金保険

料を納めることにより約束されるものですが、実はあなたの保険料によって現在の受給者が養われていることを理解してください。ですから、あなたがこれから四十年間保険料を納めるといことは、すなわちあなたが四十年間老人を養うことになるわけです。また、これをいいかえすと、あなたは今、国に年金保険料を納めていますが、国は老人となったあなたの両親に年金を支払いますので、間接的にあなたは自分の親を養っていることにもなります。このようにみていくと、きたるべきあなたの老後には、私たちの後代者によって年金が支払われ、あなたの生涯保障がされるわけですが、その際も、当然一年でも多く保険料を納めた人ほど多額の年金を手に入れるということになります。これが現実の年金社会の仕組みであり、日本で生きていく人の果すべき義務なのです。

最後に、厚生省が今年公表した「国民年金の将来の見直し」について少し話しますと、さしあたり昭和一〇〇年までの年金財政収支は、私たちにとってまったく心配のない内容であったことを記しておきます。

# 戸籍の窓

56・6・1〜6・30届出  
(敬称略)

## おめでた

区名	出生児	保護者続柄
室野	望月 美幸	活由 長女
上町	千頭和裕介	洋一 二男
〃	齋藤 典之	隆久 長男
〃	太田佐登香	勝 長女
〃	大村 太一	孝雄 長男

区名	氏名	年齢
相生町	鈴木繁太郎	七八
上町	小澤 まと	六二
〃	齋藤 辰生	四四
坂下	丸山 きく	七一
〃	丸山はつ子	五五
宮町	小笠原銀作	八三
〃	細川 君子	六三
小池	木本 繁司	五〇
南町一	佐野 その	九二
八幡町	瀧 四郎藏	八一

## 一里塚



日本人ほど自分のふるさとを意識する民族も少ないそうである。島国だから、単一民族だから、原日本民族から伝えられたものだから、何が原因なのか知らないけれど、もし僕が他所で生活していたとしても、盆と正月にはまちがいなくふるさとを想うだろう。

僕は最近自分のことを「ふるさと人間」と呼んでいる。それは僕が生れ育ったところに住んで、周囲の自然や社会の移り変りをそのままに受け入れてきた、平凡な帰結かもしれない。でも反面、いつも僕の心の中では、ふるさと人間

にとつてのふるさとって何だろうかという問いかけが、繰返しなされてくる。

僕には、東京で生活する一人の弟がいる。すでに十数年以上前にふるさとを離れているわけだが、彼の中に生きているふるさとは、自分が発ったところの、いやそれよりずっと以前の記憶の中にあるふるさとであったりする。また都会の親戚の人から、二十年も昔のイメージで僕たちの家のことを話されて、へいこうしたりすることが今でもあるのだ。

ふるさとが発展し、変化すること自体現実であり、決して厭うべきことではないのかもしれない。ただ、ふるさと人間として、フッとさびしく思うことがあるとすれ

## かなしみ

## おかあさんの「知恵袋」

ば、それは弟の中に生きているふるさとほど、僕の中に生きているふるさとは美化されていないし、またされようもないということだろう。長い歴史を持つ広報が縮刷版となつて秋に発刊されると聞いた。僕も一冊買って、弟のところへ送つてやろうと思う。彼には、これ以上のふるさと自身からの便りがあると思えないからだ。(S)

## 町への寄付

(敬称略)

十万円 中央公民館建設基金へ  
南町一 佐野 正豊  
盲人用特殊杖(シグナル付) 五本  
蒲原ライオンズクラブ  
遊動馬一騎 北松野保育園へ  
北松野保育園歴代保護者会長

滋賀県が合成洗剤追放を行うため、県条例を制定し「琵琶湖」の汚染を防いでいるというのに、静岡県では「浜名湖」でカキ大量死の記事が新聞報道された。これは湖底に滞積したヘドロや、栄養塩類の多い合成洗剤の多量使用による生態系の変化、潮流の変化などが複雑にからみ合つて湖水の低酸素状態を作り出し、ブランクトンの異常発生による酸素不足が原因しているのである。私たち主婦が毎日何げなく使用している合成洗剤が、長い年月には思いがけない環境破壊という結果をもたらすのである。

そこで消費生活研究部では、婦人会館で6月13日、家庭の使用済天ぷら廃油の有効利用策として、粒石けんを作つてみた。ホーローなべを各自が持ち寄り、苛性ソーダや塩水などを入れて四〜五時間火にかけて作るというのだが、でき上つたものを会員が持ち帰つて使用してみると、想像以上によく落ちたとの報告があった。私たちが主婦のちよつとした工夫が、下水に流せば川を汚す原因となる廃油を粒石けんに生れ変らせることができ、自然環境の保全に一役かえるのです。

## 俳句会

△文協俳句会▽

宮町 増井 冬木  
永遠を空に緘(しわ)なし今年竹  
自由業と記し判押すばら一輪  
大北町 天野 たま  
一人居に欲しきは言葉夕端居  
ホトトギス僧を囲みて女人講  
南町 法月 幸子  
蝶のみの行く雪溪の青き空  
万緑や落差重ねて水速み  
南町 影島 智子  
螢火や愚痴はひたすら聞き役に  
箱苗のいっせい芽吹く夕心  
南町 木伏 八子  
苗売りの声大きかり梅雨晴間  
南町 田辺つぎ子  
柿若葉干しあげ父の一薬に  
旭町 笠井みち子  
梅酒ありて友との話連綿と  
清水町 宇佐美裕子  
一村の田の植わりゆき月肥る  
南町 宇佐美幸子  
たんぼほの絮飛ばしつ子の戻る  
南町 上野みつ子  
宝石のごとき耳して児の風寝  
南町 上野 君江  
役すみし農具に虹の雨の降る  
本通り 古木喜久恵  
紫陽花の心足る日を色澄みし  
南町 望月 洋子  
溪の風吹き抜け木熟燃るかな